

参加者募集!

# 多文化協働実践研究・全国フォーラム (第1回)

テーマ: 多言語・多文化社会の課題に迫る!

12月1日(土)

10:00-20:00

(9:30 受付開始)

12月2日(日)

10:00-17:00

会場: 東京外国語大学・研究講義棟

定員: 300名(申込順)

参加費: 無料、懇親会費(3000円) / 宿泊手配は各自で

申込: 氏名、所属、1日目懇親会参加の有無を明記のうえメール、電話、FAXで

zenkokuforum@tufs.ac.jp、TEL: 042-330-5441、FAX: 042-330-5448

## グループ発表・個人発表(発表日時: 12月2日(日)13:00-14:45)

### ◆◇グループ発表(発表とディスカッション)◇◆

#### 1 多様な文化的背景をもつ子どもたちの協働的な学びを目指した環境づくり—大学による外国籍児童生徒支援に関する地域連携業務の取り組みをもとに—

矢崎満夫(静岡大学教育学部講師)

宇都宮裕章(静岡大学教育学部准教授)

#### 2 「大学—地域 設計型」の地域日本語教育に関する一考察—参加者と共に作り上げる地域日本語教育の場—

大野のどか(早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程)

新居知可子(早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程) / 他

#### 3 先進多文化社会における市民性の行方

アメリカにおけるヒスパニック系住民の市民意識と政治参加の動向

小林宏美(本センターフェロー)

カナダにおける多文化市民意識の再構築—多文化主義・イスラム系住民・社会統合

大岡栄美(横浜市立大学非常勤講師)

オーストラリアの「アジア太平洋国家化」言説と多文化主義

松井佳子(山梨学院短期大学准教授)

コメンテーター 木村真希子(明治学院大学国際平和研究所教員)

#### 4 在留特別許可にみる日本の入管政策—過去・現在・未来を問う—

在留特別許可に関する司法判断の動向

児玉晃一(リベラ総合法律事務所弁護士)

難民条約加入を巡り議論と在留特別許可~1965年日韓基本条約(日韓法的地位協定前夜を起点として)

西中誠一郎(ジャーナリスト)

在留特別許可・不許可事例にみる子どもの存在と労働者としての非正規滞在者

鈴木江理子(立教大学兼任講師)

コメンテーター 近藤敦(名城大学教授) 司会 渡戸一郎(明星大学教授)

#### 5 表象・文脈・ポジショナリティー

—「多文化」社会における実践と調査研究における諸問題の考察—

『私たち』と『彼/彼女ら』の境界がゆらぐ位置 ~2つの調査研究を振り返って~

渡辺紀子(本センターフェロー)

文化と対話 ~ダイアローグ岡山の試み~

川端浩平(本センターフェロー)

文脈・文化・ネーションの視点からの分析 ~国際教室の民族誌的考察から~

高藤三千代(本センターフェロー)

#### 6 自治体・国際交流協会における多文化共生施策の現状と課題—実践の現場から—

浜松市における企業内日本語教室の取り組み—国際交流協会と企業間の協働に見る現状と課題—

堀永乃(財団法人浜松国際交流協会日本語コーディネーター)

北陸都市間における国際交流ネットワークの意義と課題

橋本和久(鯖江市企画財政部男女参画・市民活動課)

京都市域における外国籍市民施策—システムづくりとネットワークキングの観点から

井上八三郎(京都市国際交流協会事業課)

コメンテーター: 北脇保之(前浜松市長、本学外国語学部教授)ほか

進行: 阿部一郎(財団法人金沢国際交流協会プロラムオフィサー)

丹下厚史(財団法人名古屋国際センター主査)

#### 7 多文化ボランティア活動による「学びの場」の創造: 国際理解教育と日本語・学習支援の連携の可能性

木下理仁(多文化コミュニティ教育支援室専門員)

河北祐子(多文化コミュニティ教育支援室専門員)

塩原良和(本学外国語学部准教授)

岡崎智子(多文化コミュニティ教育支援室スタッフ)

和田更沙(多文化コミュニティ教育支援室スタッフ)

### ■□個人発表□■

#### 1 在日日系人の地域社会における共生とその条件

—歴史的展望と横浜市鶴見区における日系人コミュニティを例に—

小嶋茂(本センターフェロー)

#### 2 ウェブサイト「川崎在日コリアン生活文化資料館」をつくる現場から

橋本みゆき(本センターフェロー)

#### 3 地域における外国につながる子どもたちの支援から見えてくるもの

支援者の語りにも「関係性」の構築

徳井厚子(信州大学教育学部准教授)

#### 4 小学校の余裕教室を活用した外国につながる子どもたちのための

ALPA 放課後支援教室

大屋道順(横浜国立大学教育学研究科言語文化教育専攻)

日本語教育コース修士1年)

#### 5 どのように差別や偏見を教えるか

—「ワールド・スタディーズ」12年目の挑戦

破合宗隆(玉川学園高等部公民科教諭・玉川大学非常勤講師)

主催: 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター

TEL: 042-330-5441 <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>

協力: 三井物産株式会社、(特活)国際活動市民中心(CINGA)、静岡県、浜松市教育委員会、群馬県太田市教育委員会、

群馬県大泉町教育委員会、長野県上田市、川崎市ふれあい館、(財)町田市文化・国際交流財団

後援: 総務省、文化庁、(財)自治体国際化協会、(社)日本語教育学会、異文化間教育学会、(特活)日本ボランティアコーディネーター協会、

(特活)開発教育協会、(特活)多文化共生センター東京、(特活)多文化共生センター大阪、「多民族共生教育フォーラム 2008 東京」実行委員会

武蔵野市国際交流協会、神奈川県相模原市、東京都府中市

# 多文化協働実践研究・全国フォーラム(第1回) 日程

## 12月1日(土)

10:00-12:00 挨拶 亀山郁夫(東京外国語大学長)

全体会「なぜ協働実践研究プログラムなのか」高橋正明(本センター長、本学外国語学部教授)

「多言語・多文化社会における諸課題と協働実践研究のアプローチ」—班別・研究テーマと活動状況報告(全6班)—

13:00-15:00 分科会 A (※(1)、(2)のどちらか1つを選んで参加)

阿部・井上班

(1)「日系ブラジル人の定住化と人材育成への展望  
—上田市の調査から見てきたもの—」

第1部 全国の先行事例と上田市におけるヒアリング調査・中間報告

報告者「企業・自治体・NPOによる取組み先行事例」田村太郎(本センターフェロー)

「上田市地元企業調査」大木義徳(阿部・井上班研究員)

「日系ブラジル人家族の適応調査」石塚昌保(心理士、本センターフェロー)

堀之内テレザ(上田市外国人相談員)

第2部 パネルディスカッション

パネリスト 玉川俊夫(日軽松尾株式会社総務部総務課長)

森大和(上田市教育長)

阿部裕(精神科医、本学特任研究員)

井上洋(日本経団連産業第一部本部長、本学特任研究員)

浦野エジソン(一橋大学大学院社会学研究科フェアレイベー研究

教育センターシニア・リサーチフェロー、本センターフェロー)

進行 田村太郎

教材開発チーム

(2)「なぜ教材開発プロジェクトを行うのか?」

パネルディスカッション

パネリスト

伊東祐郎(本センター副センター長、本学留学生日本語教育センター教授)

大蔵守久(財団法人波多野ファミリスクール主管)

岡野喜子(三井物産株式会社 CSR 推進部社会貢献推進室マネージャー)

佐藤郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授、本学特任研究員)

高橋正明(本センター長、本学外国語学部教授)

進行

武田千香(本センター運営委員、本学外国語学部准教授)

※本センターでは社会連携活動の一つとして、三井物産株式会社の協力を得て在日ブラジル人児童のための教材開発を行っております。

15:15-17:15 分科会 B (※(3)、(4)のどちらか1つを選んで参加)

山西・小山班

(3)「自治体および国際交流協会職員に求められる  
コーディネーターとしての専門性—現場の実践から—」

第1部 山西・小山班協働実践研究中間報告

「先行研究からみるコーディネーターの専門性分析」

報告者 加藤丈太郎・細井みどり(本センターフェロー)

第2部 パネルディスカッション

パネリスト 山口和美(前群馬県多文化共生支援室室長)

宮順子(岩手県国際交流協会主査)

阿部一郎(金沢国際交流財団多文化共生プログラムオフィサー)

コメンテーター 山西優二(早稲田大学文学学術院教授、本学特任研究員)

進行 小山紳一郎(かながわ国際交流財団情報サービス課課長、

本学特任研究員)

野山班

(4)「地域の特性を生かしたプログラムづくりとは?  
—各地の日本語教室の実践から—」

第1部 地域日本語プログラム調査・中間報告

報告者 旗野智紀・山辺真理子(本センターフェロー)

第2部 パネルディスカッション

パネリスト

田中喜美代(えひめ JASL(愛媛国際日本語研修会)創設初代代表・研究部長)

今井武(財団法人石川県国際交流協会専任講師)

鈴木圭子(足立区区民課多文化共生担当主査)

宮崎妙子(NPO 法人国際活動市民中心(GINGA)日本語チーム)

河北祐子(武蔵野市国際交流協会日本語学習支援コーディネーター)

進行 野山広(国立国語研究所日本語教育基盤情報センター整備普及グループ長、本学特任研究員)

17:45 懇親会(大学会館1階) ネットワーキングの場です!是非、ご参加下さい。



## 12月2日(日)

10:00-12:00 分科会 C (※(5)、(6)のどちらか1つを選んで参加)

渡戸・関班

(5)「自治体の外国人政策と区域を越えた  
行政・市民連携の可能性」

第1部 協働研究・中間報告

報告者「町田・相模原調査中間報告」宣元錫・武田里子(本センターフェロー)

「広域連携の結び目としての外国人相談ネットワーク」関聡介(弁護士、  
本学特任研究員)

「スペイン語圏から見た広域連携ネットワーク」高橋悦子

(NPO 日本ペルー共生協会副代表)

第2部 ディスカッション

パネリスト 上記報告者

総括コメント 渡戸一郎(明星大学教授、本学特任研究員)

佐藤・金班

(6)「外国につながる子どもたちの教育を地域から育む試み  
—地域、学校、行政、当事者の協働実践モデル構築を目指して—」

第1部 協働実践研究・中間報告

報告者「外国につながりを持つ子どもの教育を地域から育む試み」根岸親(本センターフェロー)

「プレフォーラムの報告」佐藤公孝(川崎市総合教育センター)

第2部 パネルディスカッション

パネリスト 井村美穂(豊田市・NPO法人子どもの国代表)

古賀美津子(福岡市・よるとも会副代表)

吉谷武志(福岡市・よるとも会代表・九州大学教授)

笹尾裕一(川崎市ふれあい館学習サポートボランティア/高等学校教員)

原千代子(川崎市ふれあい館)

コメンテーター 金迅野(川崎市ふれあい館、本学特任研究員)、佐藤郡衛(東京学芸

大学国際教育センター教授、本学特任研究員) 進行 藤田美佳(本センターフェロー)

13:00-14:45 個人/グループ発表 (5個人・7グループ) ※詳細は表ページをご参照下さい。

15:00-17:00 全体会—パネルディスカッション「多言語・多文化社会にむけて協働・実践・研究が生み出すダイナミズム」

パネリスト 協働実践研究班責任者・本学特任研究員 コーディネーター 杉澤経子(本センタープログラムコーディネーター)